

学校教育用れきはく動画コンテンツ「三内丸山遺跡」教師用指導略案（歴博第1展示室）

【目標】「三内丸山遺跡」ジオラマについて調べ、そこから発見する楽しさを体験することを通して、縄文時代の人びとの生活の様子を具体的に理解することができる。

【展開】※設問、問題が出た後は、しばらく画面を止めて、児童生徒が考える時間を確保する。

ワークシートの設問は、その都度画面を止めるか、動画を一通り見た後で実施してもよい。

| 主な発問（○）と予想される児童生徒の反応（・） 注釈（※） | 指導上の留意点（◇） |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【動画の時間 0：13～】</p> <p>○縄文時代の人々はどのような暮らしをしていたのか 「三内丸山遺跡」のジオラマから考えてみましょう。</p> <p>○縄文時代にはどのような建物があったのだろう。 ・大型竪穴住居。 ・小型竪穴住居。 ・掘立柱建物。 ※掘立柱建物は平地住居・高床建物の可能性もある。</p> <p>【動画の時間 1：25～】</p> <p>○縄文時代はどのようなものを食べていたのだろう。 ・植物の実。動物の肉（シカ、イノシシ）。</p> <p>○木の実拾いのようすを見てみよう。どんなことに気が つきましたか。 ・大きな木の実を拾っている。 ・クリではないか。 ・たくさん拾っている。 ・干したり潰したりしている。 ※縄文人の主な食べ物はクリ、トチ、ドングリなどの堅 果類であった。</p> <p>○ここは何をする場所なのだろう。 ・ものをたくわえておく場所。 ・倉庫。</p> <p>【動画の時間 3：09～】</p> <p>○土器はどのようにして作られたのだろう。 ・粘土で形を作る。 ・模様をつける。 ・焼く。</p> | <p>◇この時間は縄文時代の人々の暮らしを学習 することを意識させる。</p> <p>◇縄文時代の人々が住んでいた家や倉庫・集會 所について様々な種類があることを紹介する。 ◇自由に予想させる。教科書の挿絵等を参考に 考えさせてもよい。 ◇縄文時代にすでに高度な調理法があったこ とに気づかせる。</p> <p>◇狩猟はあまり効率のよい獲得手段ではなく、 縄文人の主な食べ物は植物食であったこと を知らせる。 ◇フグから、縄文人が単純に食べ物を焼いた り、煮炊きしたりしていたのではなくて、毒 のある部分を除去する調理法・知識があった ことを知らせる。</p> <p>◇クリの木は建築材としても幅広く利用され たことを知らせる。 ◇保存しやすいように乾燥させたり、調理しや すいように潰したりすることに気づかせる。 (虫殺しのため、最初に水につけていた。)</p> <p>◇地下は、夏は涼しく冬は暖かいので、保存に 適していたことを知らせる。 ◇縄文時代においても保存方法を工夫してい たことを捉えさせる。</p> <p>◇長時間煮沸を行うことができる土器を作る のは、簡単ではなかったことを知らせる。</p> |

※土器を作ることでできる粘土は、どこでも採れるものではなくかなり選択されていた。水漏れしない土器をつくることは至難の業であった。

○土器はどのようなことに使ったのだろう。

- ・長時間の煮沸（調理など）。　・水汲み。　・保存。

【動画の時間 4：24～】

○縄文土器を使用することによってどのようなことが便利になったのだろう。

- ・いろいろな料理を作ることができる。
- ・保存ができる。
- ・食べ物以外にも使うことができる。

※そのまま食べたら有毒なタンニン、サポニンなどを除去できるようになり、堅果類をはじめとする多くの植物質食料を食べることができるようになった。

※土器は、アスファルト、ウルシなど接着剤、塗料を作ること、草類から繊維を取り出すといった技術を支えることになった。

【動画の時間 5：30～】

○なぜ縄文人の食べ物が分かったのだろう。

- ・貝塚などのゴミ捨て場に残されたモノから分かる。

※貝塚から出土した動物、魚の骨を分析し、その種類を特定する方法。谷部や低湿地の遺跡から植物の実が腐らずに出土すること。人骨に含まれるコラーゲンの分析から当時の食料をシミュレーションする方法。人骨の歯に付着した歯石から、食物のDNAを取り出して分析する方法。遺跡から出土するコプロライト(糞石)を直接分析する方法などがある。最近では、土器の表面に空いている穴にシリコンを注入し、取り出したシリコンを顕微鏡で調べるという方法で、当時マメ類が食用とされていたことも判っている。

【動画の時間 6：29～】

○何の動物の骨だろう。

- ・シカ。　・イノシシ。　・イヌ。

◇縄文土器は野焼きの手法を用いて作られ、三内丸山遺跡では「円筒上層式土器」がよく見られることを適宜説明する。

◇煮る、焼くなど、土器を使ってどのように調理したのかを考えさせるようにする。

◇調理に水が不可欠であることを捉えさせる。

◇土器があることで長時間煮沸できるようになり、そのまま食べたら有害なもの、少々傷んで焼いたら固くなる肉なども食べることができるようになったことを知らせる。これにより、従来よりも利用できる食べ物の量が大幅に増え、その結果広い範囲から食料を調達する必要がなくなり、定住化が進んだことに関連付けさせる。

◇土器が縄文時代の様々な技術を支えることになったことと結び付けさせる。

◇どのような方法で縄文時代の食べ物を探ることができるのか、自由に考えさせる。

◇様々な方法で調べられていることを知らせる。

◇犬が食用でなく人間のパートナーだったことを「埋葬された3匹のイヌ」の画像から考えさせる。この画像は骨が揃っていることから、食用としたものではないと考えられる。

○縄文時代、イヌはどんな役割だったのだろう。

- ・狩りに使う。・子どもの遊び相手。

※飼育されたイヌだけではなく、野犬もいた。また、なかには呪術的な意味で食料とされたものもあった。

【動画の時間 7:28~】

○縄文時代の人々の暮らしについてわかったことをまとめてみましょう。

- ・様々な形のたて穴住居を建てて、くらしていた。
- ・狩猟、採集をして食べ物を得ていた。
- ・縄文土器を調理やものの保存など、様々なことに使っていた。

【動画の時間 8:13~】

○なぜ三内丸山遺跡は、5000年前と分かったのだろう。

- ・特別な機械を使う。 ・X線などを使う。

※「土器編年」では土器間の前後関係は分かっても年代は分からないので、「土器編年」「炭素14」の両方が必要となる。

◇自由に考えさせる。狩猟犬としてだけではなく、その他の役割についても考えさせる。

◇この時間の学習を振り返り、考えさせせる。
◇住居や食べ物に着目させ、まとめるよう促す。

◇土器の年代は、「土器編年」(土器の模様や形から明らかにする手立て)や、「炭素14年代法」(土器のおこげ(炭)に含まれている「炭素14」で年代を測る方法)で明らかにされていることを知る。